

第1章 天候・気候

「列車のコンパートメント（向き合う形式の客室）で見知らぬイギリス人同士が向き合った場合、彼らは天気の話をする」という有名な言葉があるが、日本人も初対面の人に話を切り出す場合は「今日はいいお天気に恵まれましたね」とか「今年は暑いですね」といった天気や気候の話をする人が多い。それは天気の話題がいちばん当たり障りがないからであろう。というわけで、天気はコミュニケーションには不可欠のテーマとなる。

そこで、この章の目標は第一に天気に関する基本表現を習得することである。と同時に第1部で培った時制の知識がどれほど正確に使いこなせるかの確認もしたい。時制に敏感になろう。

【表現力チェック】

- 1. 「桜の花」は英語で？ そして、それに **the** は必要か？
- 2. 「外は雨」と英語で言えるか？ 主語は何か？
- 3. 「雨が嫌い」と英語で言えるか？
- 4. 「降ったりやんだりしている」の言い方とその時制は？
- 5. 「天気がよければ」を **If it is fine** と思っていないか？
- 6. 「天気予報によれば」は英語で？ **the** は必要か？
- 7. 「にわか雨にあう」「びしょ濡れになる」を英語で言えるか？
- 8. 「東京の気候」の「の」は **of** でよいか？
- 9. 「夕立が少なくなった」と英語で言えるか？
- 10. 「例年になく雪が多い」と言えるか？ 「20年ぶりの大雪」というときの「ぶり」の表現にはどのパターンを使うか？